

# 瀬戸内海中部におけるカモメ類の季節変化（予報）

---

多田 英行（日本野鳥の会岡山県支部）





## はじめに（調査の背景）

- 岡山県は越冬期のカモメ類の個体数が少ない地域。そのため、**カモメ類の個体数の季節変化**について報告が少ない。
- 瀬戸内海東部では越冬期のカモメ類の個体数が季節変化し、その変化は海域によって異なることが知られている。
- **瀬戸内海中部**の越冬期のカモメ類の季節変化を把握するため、岡山県内のカモメ類の**個体数をカウント**した。また、渡来個体の構成を把握するために**第1回冬羽個体をカウント**した。



## 調査方法

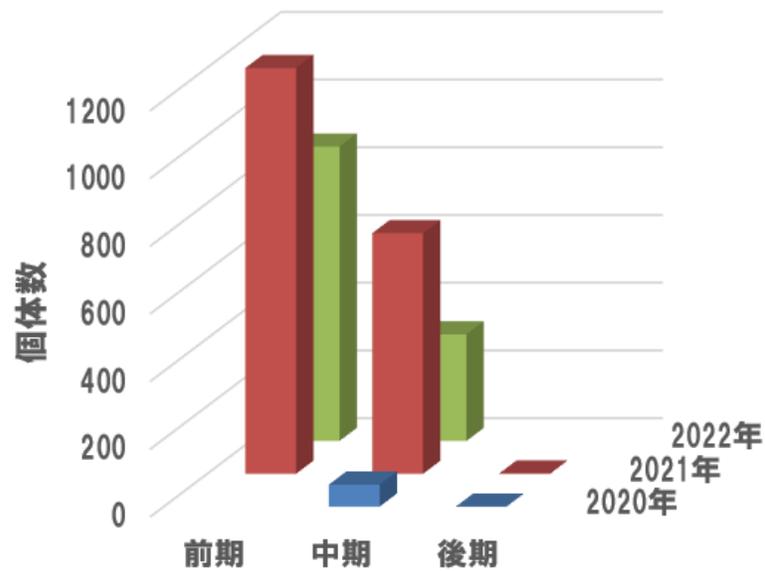
- 調査は**2020年11月-2022年12月**に実施（**前期：9月頃、中期：12月頃、後期：3月頃**）
- 各期において、**岡山県内全域の海岸や汽水域をそれぞれ1-2回訪れ、カモメ類の個体数をカウントした（同じ場所で2回調査した場合には、個体数の多かった日の記録を採用）**
- **2022年度の調査では第1回冬羽の個体を別途カウントした**

※本調査では離島での調査は実施しなかった

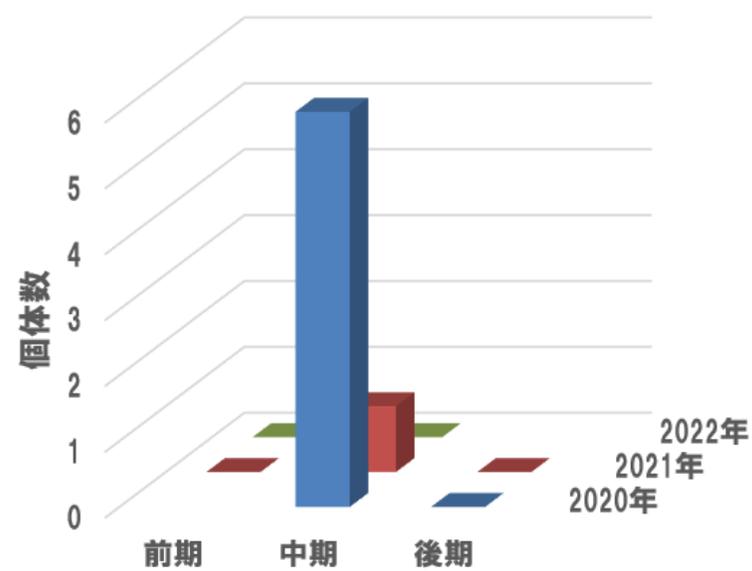
※セグロカモメの記録にはニシセグロカモメなどの近縁種を含んでいる可能性あり（含んでいたとしても僅かなため誤差の範囲として扱った）



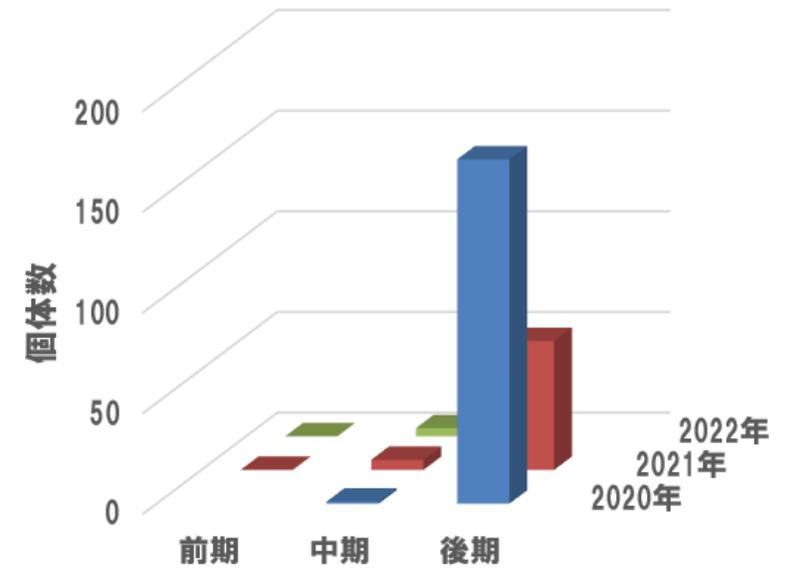
# 調査結果①（季節変化：強）



ウミネコ  
(前期型)



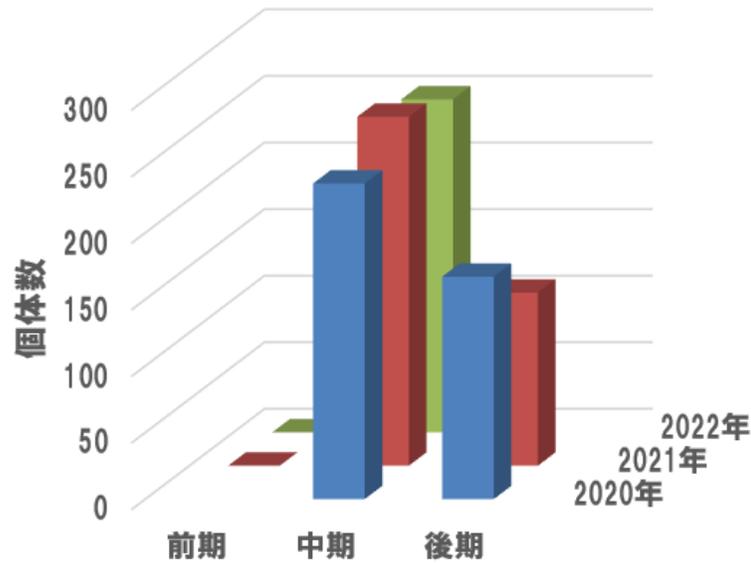
オオセグロカモメ  
(中期型)



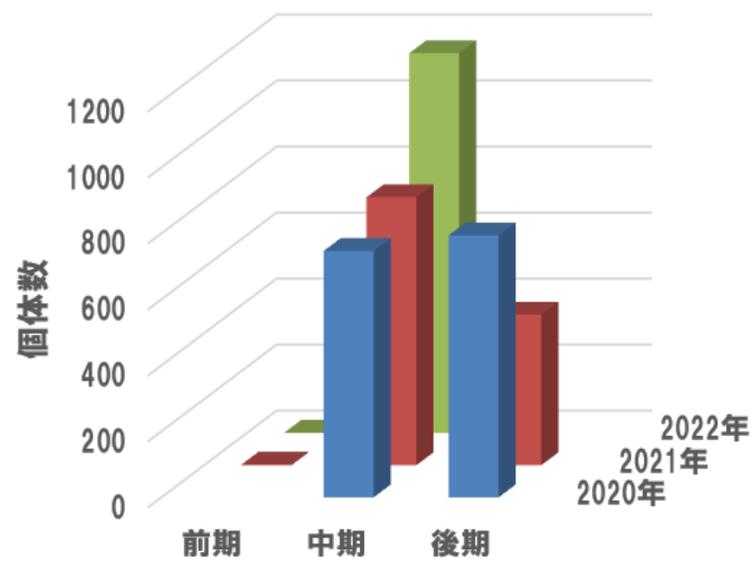
カモメ  
(後期型)



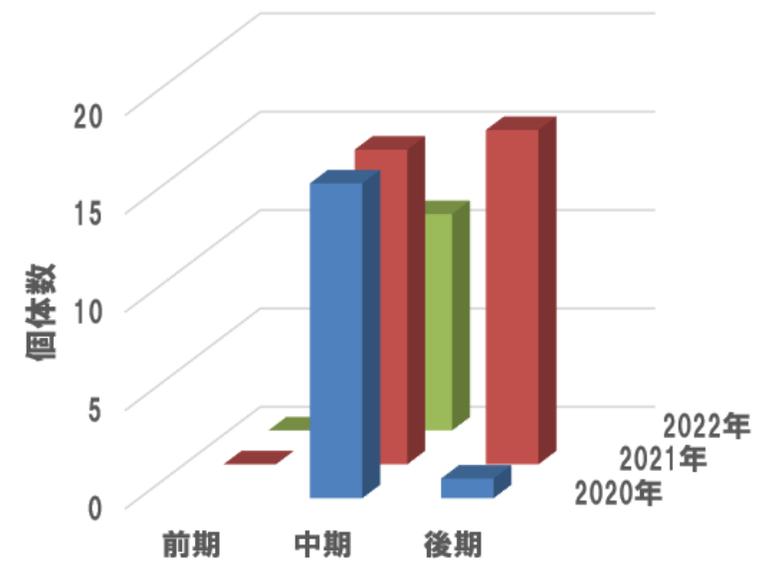
## 調査結果②（季節変化：弱）



セグロカモメ  
(中期型)



ユリカモメ  
(中-後期型)



ズグロカモメ  
(中-後期型)



## 調査結果③（第1回冬羽個体の割合）

種名(識別個体数)	割合
セグロカモメ (250個体)	1.2%
ウミネコ (315個体)	0.6%
ユリカモメ (1578個体)	0.8% (推定)
ズグロカモメ (11個体)	18.0%

※ユリカモメは遠距離観察での羽色識別が困難な場合が多かったことから、2022年度に群れの全数識別ができた記録を基に推定した。(調査地に地理的な偏りあり。同一調査地での複数回の調査を含む。)



## まとめと考察

- カモメ類の季節変化の傾向は種ごとに異なった  
→種ごとの**主な餌**や**渡りルート**の違いが要因になっている？
- ウミネコ（前期型）とカモメ（後期型）は季節変化が顕著だった  
→瀬戸内海中部は越冬期の**一時的な滞在場所**となっている？
- ズグロカモメ以外では第1回冬羽個体の割合が低かった。  
→瀬戸内海中部は**若鳥の越冬地**として適していない？

※本調査は2022年度の調査終了後に、より詳細な解析を行ったうえで紙面発表する予定です。



# 補足（海域の特徴）

